

中等教育研究開発室年報 第32号（2019年3月31日発行）別冊電子版
2018年度 授業実践事例

芸術科（音楽） 高等学校第I学年

音楽で詩を紡ぐ

授業者 増井 知世子

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 芸術科(音楽) 学習指導案

指導者 増井 知世子

- 日時** 平成30年10月13日(土) 第1限 9:30~10:20
- 場所** 第1音楽室
- 学年・組** 高等学校I年 音楽選択クラス(イ) 42人(男子18人 女子24人)
- 題材** 音楽で詩を紡ぐ
- 目標**
1. 題材に関心を持ち、主体的にかつ協力して学習に取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
 2. 表現したいイメージを持ち、詩の朗読を音楽で引き立たせるための具体的な方法を考える。
(音楽表現の創意工夫)
 3. 上記2で考えたことをより豊かに表現するための技能を高める。
(音楽表現の技能)
 4. 作品を観点にそって鑑賞し、批評することができる。
(鑑賞の能力)

指導計画(全10時間)

第一次	詩の朗読に音楽がつけられた作品例の鑑賞	1時間
第二次	グループ分けと詩の選定・熟読, 創作	5時間
第三次	中間発表, 改善, 本発表	3時間(本時3/3)
第四次	まとめ	1時間

授業について

研究大会要項の芸術科主題のページに、本校音楽科で考える深い学びの定義として3点を挙げている。3点のうち特に2)の側面からの深い学び「自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫しようとする姿勢を持ち、より豊かな表現のために必要な、技能に関するメタ認知能力を身につける。」を達成するには、創作活動は有意義である。なぜなら、歌唱や器楽の活動が作曲者の意図を楽譜から読み取ることから始まり、それを音楽の響きとして再現するという過程をたどるのに対して、創作活動は、自分の表現意図を出発点として行われるものだからである。

本題材<音楽で詩を紡ぐ>では、詩の朗読を引き立たせる音楽を創作する。創作のイメージのよりどころは、詩人による数点の作品である。授業者は数年前に、創造力の育成を目的として、詩の朗読に合うBGMをつくる授業を行った。この授業を構想したのは、授業者がもともと詩や詩の朗読に興味をもっていただけであって、詩人の谷川俊太郎氏による自作の詩の朗読に音楽がつけられた作品に出会い、触発されたからである。

今回の取り組みでは、音楽を、詩の朗読のBGMという位置づけからもう一步前進させ、詩の内容自体から、あるいは詩を朗読したときの響きからイメージしたことや湧き出る感情を、音楽の響きとして表現させたい。例えば、前回の取り組みでは、詩の朗読に沿ってBGMを創作したが、詩の朗読に先立って、情景を予感させる前奏をつくったり、一連ごとに間奏を入れたりして詩をつないでいくなどの工夫も考えられる。

創作過程の記録や作品やワークシートを手がかりに、深い学びの検証をはかりたい。上記指導計画の第一次から第四次の内容は、学びを深める4つのステップ、すなわちコンフリクト、内化、外化(上り下り含む)、リフレクションと対応させて考えている。

本題材の取り組みは、深い学びの一つの手立てではあるが、生徒たちには、学習したことを今後の音楽活動に生かしてほしいと期待する。

題 目 作品の本発表と相互評価

本時の目標

1. 意欲的に学習に取り組み、積極的に意見交流する。 (関心・意欲・態度)
2. 詩の朗読を音楽で効果的に引き立たせた作品を発表することができる。 (音楽表現の創意工夫, 技能)
3. 他者作品を観点にそって鑑賞し、批評を記述・意見発表することができる。(鑑賞の能力)

本時の評価規準 (観点/方法)

1. 意欲的に学習に取り組み、積極的に意見交流している。 (関心・意欲・態度/行動観察, 発表)
2. 詩の朗読を音楽で効果的に引き立たせた作品を発表できている。 (音楽表現の創意工夫, 技能/作品発表)
3. 他者作品を観点にそって鑑賞し、批評を記述・意見発表できている。 (鑑賞の能力/発表, ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入></p> <p>○出席確認・着席</p> <p>○本時の課題確認</p>	<p>○グループ別に指定された席に着席する。</p> <p>○ワークシートを受け取り、本時の課題を確認する。</p>	<p>○グループで必要な楽器等はあらかじめ自分たちで準備させておく。</p> <p>○課題を確認できているか。 発表時には中間発表で練り直した点についてグループの代表が説明することと、鑑賞時に聴く観点についてワークシートの内容を補足する。</p>
<p><展開></p> <p>○グループごとの発表・意見交流</p>	<p>○発表→批評のワークシートへの記入→意見発表・交流 この流れを繰り返す。</p>	<p>○生徒たちの意見交流を大切にしたいため、指導者による作品の批評は(少なくとも生徒が発言する前には)控える。必要に応じて助言する。</p>
<p><まとめ></p> <p>○本時のまとめ</p>	<p>○ワークシートに記入する。</p> <p>○次時の課題を確認する。</p>	<p>○本時の活動を振り返らせる。 ・満足のいく作品ができたか。 ・他のグループの作品から何を学んだか。</p>
<p>準備物 作品発表に必要な楽器, 譜面台, ワークシート (批評の観点についてはワークシート参照)</p>		

*本時のワークシート

音楽で詩を紡ぐ～音楽表現を深めるために～

班	選んだ詩とその詩を選んだ理由	工夫が感じられた点, 質問してみたいこと
1	①「あお」 幻想的で美しかったから。	
2	⑥「泣いているきみ」 ストーリー性があったから。	
3	②「四月の雨」 まとまりが良いから。 言葉のキーワードが多くてやりやすそうだから。	
4	②「四月の雨」 いくつか選んだ詩の候補の一つだったから。	
5	⑤「朝のリレー」 詩の雰囲気明るくさわやかで気に入ったから。 風景の想像もしやすいから。	
6	③「歌」 ストーリー性があるから。ロマンチックだから。月が好きだから。	

*この取り組みを通して、あなたはどんなことを考えましたか。

また、今後、音楽表現をする（特に歌唱）際に、今回学んだことをどのように活かしていけるとおもいますか。

実践上の留意点

1. 学びを深める4つのステップ

指導計画それ自体を、学びを深める4つのステップ、すなわちコンフリクト、内化、外化（上り下り含む）、リフレクションと対応させて考えた。それは以下のとおりである。

第一次 詩の朗読に音楽がつけられた作品例の鑑賞（コンフリクト）

第二次 グループ分けと詩の選択・熟読，創作（内化）

第三次 中間発表，改善，本発表（外化→内化→外化）

第四次 まとめ（リフレクション）

2. 詩の選定

音楽創作の対象として指導者が選定した詩は、谷川俊太郎の「あお」、「泣いているきみ」、
「朝のリレー」、小池昌代の「四月の雨」、新川和江の「歌」である。情景やイメージを想像しやすいもの、高校生の感覚に合うと考えられるものを選定した。これらの詩の中から、グループで1つ選択させた。

3. 作品の例示

第一次に関わる事項である。学習の見通しや創作のイメージをもたせるために、作品の例示を行った。一つは、谷川俊太郎が自作の詩に音楽をつけているCDを聴かせたこと、もう一つは、創作学習の過程が教育実習期間と重なっていたこともあり、実習生たちが即興で（30分くらいの準備と打ち合わせは必要であったが）、選定したのとは違う詩に音楽をつけて演じて見せた。これらの例示は、その後の生徒たちの創作の参考になった。

4. グループ分け

第二次に関わる事項である。男女混合の6グループにした。まず男女それぞれで6グループに分かれさせた。グループの創作活動では、自主的に学習を進めていくためのリーダー性を発揮できる人と、音楽的な面（記譜や楽器演奏など）でリードできる人が必要であると考え、グループに分かれる際にその点を考慮させた。男女それぞれでグループを作った後、メンバーを合体させた。

5. 相互評価による高め合い

第三次に関わる事項である。中間発表で相互評価し改善した後、本発表でも評価し合い、工夫した点、創作の意図などについて質問したいことを考えさせた。

6. リフレクション

第四次に関わる事項である。リフレクションは、学習したことが次の学習に活かされていくという望ましい循環を可能にするための大切な局面である。まとめとして生徒が記述した内容には“作曲の難しさや作曲家の偉大さがわかった”“今後、歌を歌う時には、もっと歌詞を読み込み、作曲者の意図を考えて、なぜそのような強弱記号がついているのかなどを考えて歌うようにしたい”などの記述が多くみられ、指導の目標は達成することができたと感じている。